

# 消費者・マスコミ対応のためのリスクコミュニケーション

## — 情報提供・伝え方・マネジメントのあり方とは —

食品の安全性を謳って“安心”を得られないのは何故なのか？ 必ず伝えなければならないことは何か？ 伝えたいことがどうしてうまく伝わらないのか？ 対応を誤ると、かえって相手の不信感を煽ることになりかねません。消費者、マスコミへの情報提供・発信のあり方は基本的には同じですが、何を求められているかを理解し、関心事に応じた伝え方、通り一遍ではない丁寧なコミュニケーションが必要です。

第1部では、内閣府食品安全委員会リスクコミュニケーション専門調査会専門委員、地下水汚染事件調査対策委員、異物混入問題タスクフォース外部委員を務めた蒲生恵美様に、事故から事件化したプロセス、消費者に寄り添った対応、情報提供のあり方などについてご講演いただき、第2部では、農林水産省の「食品Gメン」の指揮官として食品表示の監視・摘発に携わり、食品偽装や事故米問題でマスコミ対応を経験された中村啓一様に、失敗事例、記者会見の注意点、謝罪の姿勢、いざという時には覚悟を決めてかからなければならない広報担当者の役割と社内連携などについてご講演いただきます。

第1部	講演：消費者対応の実際 —情報提供のあり方は企業の姿勢を表す— 【13：00～14：30】
	講師 公益財団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 専門委員 蒲生恵美 氏  ①事故を事件化させないために ②消費者心理を探る ③情報提供のあり方 ～伝える相手を理解する～
第2部	講演：マスコミ対応の実際 —広報の失敗は会社をつぶす— 【14：40～16：10】 講師 公益財団法人 食の安全・安心財団 理事・事務局長 中村啓一 氏  ①何がどのようにいけなかったか、自らの失敗事例と解説 ②行政から見た、企業の対応 ～失敗事例と成功事例～ ③社内体制の構築と連携
第3部	意見交換：リスクコミュニケーション、情報提供のあり方を考える 【16：20～16：50】 コーディネーター 日本食糧新聞社 行政取材局長 伊藤哲朗

【開催日】2018年10月5日（金）13：00～16：50（受付：開始30分前～）  
【会場】アキバプラザ・EX ルーム〈7階〉（東京都千代田区神田練堀町3 富士ソフト秋葉原ビル）  
【受講料】15,000円（税別）※コンサルタント業務に携わる方はご遠慮ください

お申込書は  
裏面です

日本食糧新聞社「食品製造・品質研究会」

担当：合志（ゴウシ） TEL:03-3537-1310 / FAX:03-3537-1071

# 食品製造・品質研究会 10月5日 申込書

FAXで**03-3537-1071**へお申込みください。

2018年 月 日

会社名	
〒	
住所	
電話	FAX
部署／お役職	お名前

※お申込み後、請求書をお送りします。ご希望に○印をお付けください。(銀行振込み・当日現金払い)  
※受講票は発行しておりません。当日はお名刺をお持ちください。

【事前質問 記入欄】 ※会社名や氏名は明かしません。

今回のテーマに即したご質問・ご意見等がありましたら、ご記入ください。第3部で取り上げます。

尚、時間等の都合により全てのご質問に回答いただけないことがありますので、予めご了承ください。

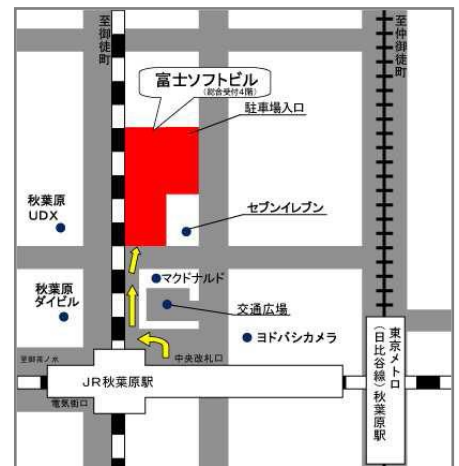
--

## 【会場】アキバプラザ・EXルーム〈7階〉

(東京都千代田区神田練堀町3 富士ソフト秋葉原ビル)

いずれも「秋葉原駅」から

- ◆ JR線 中央改札口徒歩2分
- ◆ つくばエクスプレス線 A3改札口徒歩1分
- ◆ 東京メトロ日比谷線 2番出口徒歩1分



**個人情報の取扱いについて** お申込み時にいただいた個人情報は、当該業務および当社からのご案内を目的とする以外には利用しません。尚、当該業務の委託に必要な範囲で委託先に提供する場合や関係法令が認める場合等を除き、お客様の許可なく第三者に提供することはありません。